

美作国
建国1300年
記念弁当

やま弁『春べっぴん』

売り出し
間近!!

♪春が来た～やま弁が来た～どこにきた
雪が解けて 花も咲いて 鏡野に きた～♪



随時旬な食材で春の味わいが楽しめます。どれ一つ同じ内容の弁当はありません。それぞれが、工夫を凝らし個性溢れる内容で、鏡野町のやま弁はジワリジワリ・・・と人気を呼んでいます。お楽しみに!!

※写真は昨年の春べっぴんです

販売
期間

4月6日(土)～5月26日(日) 土・日・祝日

※GWは毎日

※予約注文は6個から承ります

販売
場所

夢広場・みずの郷奥津湖・道の駅奥津温泉

値段

1,000円

製造者

民宿いしはら・うまいもん工房・お食事処どんぐり・旅館ことぶき荘・のとり館・夢味工房

お問い合わせ先

鏡野町観光協会 岡山県苫田郡鏡野町奥津462 電話 (0868) 52-0711

館長のガラストーク



「大地の記憶I」
西川慎 2009年



「硝子鉢」
山田輝雄 2008年



「エパーン」
小牟禮尊人 2011年



「可能性のうつわI」
三浦和 2013年

4月から始まるこの企画展は、妖精の森ガラス美術館の準備段階から今日に至るまで、国内のガラス作家やガラス工房のスタッフがウランガラスを用いて制作した作品をご紹介しますために開催されるものです。

ウランガラスはガラス原料に着色剤として微量のウランを混ぜたもので、淡い黄緑色に発色し、紫外線を浴びると緑の蛍光を放ちます。1830年代にボヘミアで生産が始まり、19世紀半ばにはヨーロッパからロシア、アメリカまで広まりました。日本では明治末から大正、昭和にかけて、食器類や置時計、カキ氷を食べる氷コップなどが量産され、市民の間で広く愛用されました。

第二次世界大戦の頃、ウランは核兵器の開発に用いられガラス工場では使用できなくなります。戦後も厳しい制限が続きますが、今でもチェコやアメリカでわずかに生産されています。日本では妖精の森ガラス美術館で、地域資源を活用した地域振興事業として、人形峠産のウランを用いたガラスの制作が行われています。

この展覧会では試作段階から制作に携わったガラス作家や、開館後、制作に協力した作家たち、また、当館の工房スタッフの作品を展示して、造形素材としての可能性とウランガラスの多面的な魅力をご紹介します。独特の神秘的な光りと輝きをお楽しみください。

妖精の森ガラス美術館 館長 畠山 耕造

<展覧会情報> 上齋原で作られたウランガラス“ウランガラスの光りと輝き”展 2013年4月3日(水)～2013年7月8日(月)

お問い合わせ先 妖精の森ガラス美術館 電話 (0868) 44-7888